

「パウロ、カイサリアで監禁される」

2016年09月17日

使徒言行録 24章 24節～27節 数日の後、フェリクスはユダヤ人である妻のドルシラと一緒に来て、パウロを呼び出し、キリスト・イエスへの信仰について話を聞いた。しかし、パウロが正義や節制や来るべき裁きについて話すと、フェリクスは恐ろしくなり、「今回はこれで帰ってよろしい。また適当な機会に呼び出すことにする」と言った。だが、パウロから金をもらおうとする下心もあったので、度々呼び出しては話し合っていた。

さて、二年たって、フェリクスの後任者としてボルキウス・フェストゥスが赴任したが、フェリクスは、ユダヤ人に気に入られようとして、パウロを監禁したままにしておいた。

パウロは総督フェリクスの前でエルサレム神殿当局からの告発を受け、弁明をした。反論できない神殿当局の対応を見て、フェリクスはパウロの弁明の正当性を認めたであろう。しかし、当初から騒動に関わった千人隊長の到着を待って、判決を下すと言って、裁判を延期した。そして、パウロをヘロデの官邸に監禁するように命じた。その監禁は友人たちがパウロを世話することを許す寛大なものであった。

数日後、フェリクスはユダヤ人である妻ドルシラを伴い、パウロを呼び出し、主イエスに対する信仰について聞いた。パウロは正義や節制について、また、最後の審判などについて話した。フェリクスはパウロの話を聞いて、恐ろしくなり、「今回はこれで帰ってよろしい。また適当な機会に呼び出すことにする」と言って、帰した。

マルコ福音書 6章にヘロデ・アンティパスと洗礼者ヨハネのことが記されている。ヘロデが兄弟の妻を自分の妻としたことに対し、ヨハネは律法に反すると抗議した。怒ったヘロデはヨハネを獄に閉じ込めた。その時のヘロデの心境について、「ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである」と書いている。およそ真実な説教は聞かざる者の罪をえぐり出し、心苦しくさせる。しかし、なお聞きたいと思うようなものである。

フェリクスもパウロの正義を貫き、自らを節制し、愛に生き、裁きの終末を迎えるという説教を聞き、良心が咎め、恐ろしくなったのであろう。しかし、フェリクスには下心があった。パウロからお金をもらうために、度々呼び出して、話す機会を持った。

パウロはコリント書（二）11章 27節で、「苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食わずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました」と、宣教時に経験した苦勞を述べている。自活するためにテント造りをし、支援金も受けていたであろう。しかし、パウロは裕福であったのではないかと思う。あれだけ広範囲、長期間の宣教旅行を、弟子たちを伴ってした訳であるから、膨大な費用を費やしたであろう。また、諸教会に手紙を幾度も書き送っている。当時としては、郵便代も相当かかっただろう。更に、エルサレム教会の4人が「ナジル人の誓願」をするに当たり、その費用を出すことを承諾している。パウロは金持ちであった。それを見抜いて、フェリクスはお金を取れると思ったのではないか。また、フェリクスはユダヤ人に気に入られようとしてパウロを監禁したままにしておいた。千人隊長が来ることもなく、パウロは2年間も監禁状態に置かれている。2年後、総督がフェリクスからボルキウス・フェストゥスに交代した。パウロは獄中においても、主イエスの福音を宣べ伝えている。しかし、無罪の判決も下されず、2年間の無為な監禁は耐え難いものであったに違いない。